

今月の重点活動

■指導農業士、青年農業士 新規認定証交付式

7月12日に、羽島市役所において新規認定の指導農業士1名、青年農業士2名へ認定証を交付した。

例年、岐阜県指導農業士連絡協議会通常総会の式典の中で、認定証を交付しているが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、総会がリモート開催となり、農林事務所長から交付することとなった。交付式の後、各農業士の自己紹介や現在の農業情勢に関する意見交換等を行った。

新規認定された農業士の方々には、新規就農者の育成指導、女性農業士の経営参画への理解、地域農業の振興に関する指導助言を行っていただく。

(園芸産地支援第一係・小森 志保、園芸産地支援第二係・菊井 裕人)



【新規農業士の皆さん】

■いちご 施設園芸等燃油価格高騰対策への取り組み

7月12日に、ぎふ農協岐阜市いちご部会を対象とした燃油高騰対策関連事業の取り組み意向農家に対する勉強会が開催された。これは原油価格高騰の長期化が懸念されるなか、燃油価格高騰の影響を受けにくい経営への転換を図るもので、セーフティネットへの参加や省エネ設備の導入支援を行うこととしている。岐阜市いちご部会では、4名の生産者が省エネルギー等対策推進計画を策定することとなった。農林事務所では事務局と連携して計画書の策定、省エネルギー生産管理を支援し、3年間で燃油使用料の15%以上の削減を目指す。

(園芸産地支援第二係・若原 浩司)



【勉強会の様子】

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■水稲 水稲青空教室勉強会を開催

7月13日に、JAぎふ本店において水稲青空教室勉強会が開催された。この勉強会は、今後各地で開催される水稲青空教室で講師を務める、JAぎふ営農担当者を対象として行うもので、新型コロナウイルス感染拡大の観点からWeb形式での開催となった。当日はJA職員約30名が参加し、農林事務所及び全農岐阜県本部から青空教室での指導ポイントについて説明した。農林事務所から、これまでの気象推移や水稲の生育経過と共に今後の肥培管理技術について説明した。特に今年の夏は気温が高いとの気象予報が出ているため、猛暑時の栽培ポイントについて重点的に解説し、青空教室での指導内容の統一を図った。

今後、農林事務所は水稲の生育状況や病害虫の発生動向について、JAぎふへ情報提供を行い、令和4年産米の単収及び品質の確保を図っていく。

(地域支援第三係・松本 政行)



【Web勉強会の様子】

安心して身近な「ぎふの食」づくり

■麦類 坪刈麦の品質分析を実施

7月1日と4日に、麦類のサンプルの品質分析を行った。農林事務所では、令和4年産小麦・大麦で品種試験や施肥試験、定点調査を実施し収量を見てきたが、実需者ニーズに即した良質な麦類を生産することも重要であるため、各種試験で得られた麦類サンプル約50点について、県農業技術センターや全農岐阜県本部の機材を借用し、蛋白質含量や容積重、千粒重などを測定した。その結果、小麦・大麦ともに実需者の要望する水準を満たし、加工性に優れる麦類であることが確認できた。

今後、農林事務所はJAぎふ等と連携しながら今回の分析結果を踏まえ、令和5年産麦類の栽培体系を構築することとしている。
(地域支援第三係・松本 政行)



【品質分析の様子】

■アスパラガス 天敵導入に向けて検討

近年、岐阜地域では、アザミウマによるアスパラガスの被害が増えている。生産者の防除時期が遅く、アザミウマ類の発生量が増え、被害の増加につながっていることや、アザミウマに対する薬剤の効果が落ちているという生産者の意見もある。また、生産者の高齢者化にともない、防除の負担も大きくなっている。

そこで、防除適期を逃さずに防除の回数を減らすため、天敵の導入を検討した。岐阜県では天敵導入事例がないため、次年度試験を行い、管内への普及を進めることとしている。
(園芸産地支援第一係・佐藤 博)

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■露地野菜 令和4年度秋作野菜の栽培講習会開催

各務原市では、秋冬作の露地野菜品目が多く生産されている。8月に入ると、は種が始まるものが多いため、JAぎふの各部会が品目ごとに栽培講習会を開催した。

農林事務所では、7月14日のブロッコリー栽培講習会を皮切りに、秋かぶ、はくさい、キャベツの栽培講習会において講師を務めた。

生産者の多くはにんじんを栽培し、その他品目との組み合わせで経営を行っている。8月に入るとにんじんのは種が始まるとともに、各秋冬野菜の定植が続く、忙しくなるが、11月から年末にかけての出荷に向けて、収量が上がるよう引き続き、農林事務所では指導を行っていく。
(地域支援第二係・水川 誠、谷川 千遥)



【栽培講習会の様子】

■いちご 第47回岐阜県いちご共進会表彰式

7月20日に、第47回岐阜県いちご共進会表彰式がJA会館において開催された。例年は、7月に開催されるいちご生産者大会で、特別優秀賞に選ばれた生産者の表彰を行っているが、新型コロナウイルスのまん延により生産者大会の中止が続いている。本年も中止になったことから、表彰式のみを開催することとなった。

令和3年作は全体的に前年より減収の作柄となった中で、表彰された皆さんは安定した収量を上げられており、今回、特別優秀賞に選ばれた10名のうち、8名は岐阜管内の生産者で、岐阜地域の技術の高さが認められる結果となった。

(園芸産地支援第二係・菊井 裕人、若原 浩司)



【特別優秀賞の皆さん】